

## 女性アーカイブズ概論

### 1. Information is Power: 「女性情報アーカイブズ」とは何か

#### 1-1. 「女性情報」:

- 「(1) 女性の地位向上、女性問題解決のために必要な情報を女性の視点で作し、提供する情報
- (2) 女性運動の基礎となるのは情報であり、それは行動を起こす意識、実行力、他への働きかけの「力」であること
- (3) 情報は単なる資料ではなく人間のネットワークをつなぐ「のり」の役割を果たすものであり、それ故に女性たちの連帯に欠くことができないもの」

1985 年、国立婦人教育会館（当時）「情報に関する婦人教育国際セミナー」における定義

\* 出典：縫田暉子『情報との出会い：語り下ろし』ドメス出版、1999（p.227-228）

国立女性教育会館サイト『女性情報レファレンス事例集』

<http://winet.nwec.jp/tictconsult/case.php?id=195>

#### 1-2. 「女性アーカイブ」

「女性に関する歴史的事実や活動の記録史料、またはそのための機関。一般に、く①将来にわたって保存する歴史的文化的価値がある記録史料 ②その保存・利用のための施設や組織 ③記録史料の収集・整理・保存・公開」を指す。アーカイブ資料は、図書や文書などの文献資料のほかに、画像・映像資料、聞き取りなどの口承資料、生活用具や活動のピラなどの現物資料が含まれる。日本では女性の記録史料を系統的に収集・公開するシステムが未整備で、散逸が危惧されている。

記録は権力と大きなかわりがあり、マイノリティや反体制的な運動の記録は残りにくく、女性の記録も破棄されたり、引き取り手がないために散逸しやすい。かろうじて保管された資料も、各地の図書館、女子大学、女性団体や研究会などが個別に所蔵しており、整理・公開が進んでいないのが現状である。中でも女性史やジェンダー研究者によって発掘された聞き取りテープや地域資料の整理保存は緊急の課題となっている(2005 年(独)国立女性教育会館調査)。

従来軽視されてきた女性の歴史・活動を明らかにする女性アーカイブは、歴史的事実を検証し、市民の知る権利を保障する資料としてきわめて高い公共性がある。2008 年に(独)国立女性教育会館はわが国初の女性アーカイブセンターを開設し、地域に眠る女性アーカイブのネットワーク構築に向けて支援を開始している。(2010.7)」

日本女性学習財団サイト 『キーワード・用語解説』

<http://www.jawe2011.jp/cgi/keyword/keyword.cgi?num=n000184&mode=detail&catlist=1&onlist=1&shlist=1>

#### 1-3. 「アーカイブズ」:

- 「(1) 業務遂行の過程で個人又は組織により作成・收受されて蓄積され、並びにその持続的価値ゆえに保存された文書。
- (2) アーカイブズを保存し、閲覧利用できるようにする建物又は建物の一部。アーカイブズ保存所とも呼ばれる。

- (3) アーカイブズを選別、取得、保存、提供することに責任をもつ機関又はプログラム。アーカイブズ機関(archival agency)、アーカイブズ制度、アーカイブズ事業とも言われる。」

International Council on Archives. Multilingual Archival Terminology.

<http://www.ciscra.org/mat/termdb/term/3779,3780,3781>

#### 1-4. 「アーカイブズ」とは

- ✓ 個人や組織の「活動」の中で生み出され
- ✓ 「活動」のために利用され、保存され、活動の証拠となる
- ✓ ありとあらゆる形態の記録である
  - ・ 「活動」のコンテキスト情報がコンテンツの解釈を左右する
  - ・ 活動中は当事者・利害関係のある人のみがアクセスでき、その一部が一定期間の経過後に、歴史的資料として、誰もがアクセスできるようになる

## 2. 活動とアーカイブズの関係

### 2-1. ライフ・サイクル

業務を通じて作成・保存される記録を以下の3段階に分けて管理  
現用(current)→半現用(semi-current)→非現用(non-current)

### 2-2. 2種類のアーカイブズ「機関」

- 組織（機関）アーカイブズ organizational/institutional archives
- 収集アーカイブズ collecting archives

## 3. 女性アーカイブズ

- ・ 組織アーカイブズの主流は男性中心社会の男性中心組織の男性中心記録  
⇒1930年代半ば～ 「女性アーカイブズ」設立運動  
「収集アーカイブズ」としての「女性アーカイブズ」の出現  
国際女性運動アーカイブズ（オランダ）・World Women's Archives Center（USA）
- ・ 女性運動の「波」に呼応して → 「私たちの歴史」

### 「私たち」という視座の重要性

\*参考：ニューヨークの Lesbian Herstory Archives の基本方針

<http://www.lesbianherstoryarchives.org/>

- ・ レズビアン女性は誰でも LHA を利用できる。コレクションの利用に関して、学術的、政治的、性的資格は問わない。人種や階級もバリアとはならない。
- ・ LHA はコミュニティの中にあり、大学のキャンパス内にはない。大学はそもそも多くの女性に閉ざされた場であるからだ。
- ・ LHA は全てのレズビアン政治的闘争に関与する。
- ・ アーカイブズに関するスキルは、ある世代のレズビアンから次の世代のレズビアンへ伝えられる。これは伝統的アーカイブズのエリート主義と決別するためである。

- ・ コミュニティは、アーカイブズにおける様々な仕事をともに行う。
- ・ 資金源は外部資金ではなく、アーカイブズが奉仕すべきコミュニティに求めるべきである。
- ・ LHA には、いつでもその世話をする人間が一人住み込んでいる。それが施設ではなく、誰かの「家」であり続けるためである。
- ・ LHA は決して売られることも、分割されることもない。

「NGO にとって、自らのアーカイブズを保存することは、現在と未来に生きるすべての人びとの既知・未知の要求に応えるための連帯の行為であるとともに、忘却を避けることで『はかなさ』を乗り越えるための手段でもあります。アーカイブズを保存しない組織は、忘れ去られる運命にあるのです。」

国際アーカイブズ評議会 (International Council on Archives : ICA) 『NGO のアーカイブズ : 共有すべき記憶—60 の質問による実践的ガイド』"Les archives des ONG : Une mémoire à partager. Guide pratique en 60 questions." 2004, p.8. <http://www.ica.org/?lid=10105>

私たちの活動、仕事、生活の記録こそが、女性アーカイブズ！

#### 4. 事例紹介：練馬母親連絡会の活動とアーカイブズ

詳しくは配布資料『PRISM』No.5 参照

練馬母親連絡会：活動の記録が立教大学共生社会研究センターに所蔵・公開、現在は学内 2 つの学部ゼミ（歴史学、社会学）で利用。

練馬女性史を拓く会：連絡会メンバーへの聞き取り・連絡会アーカイブズを活用して女性たちのあゆみを記録に残す活動を続けている。→成果物『始まりはひとりから』（練馬の女性たちの記録（1-3）、総論編（1-2））もセンターに寄贈され、頻繁に利用されている。

■いま・ほぼ同時代の記録    □当時の記録

##### ■【いま：大手メディア】（資料1）

朝日新聞 2014年9月27日 朝刊                      東京西部・1地方 29面

「練馬区が日大へ55億円を支払う 病院撤退問題で / 東京都

練馬区は26日、「練馬光が丘病院」を運営していた日本大学から預かった保証金50億円と遅延損害金（約5億7671万円）を日大に支払ったと発表した。

病院運営から撤退した日大に対し、区が保証金の返還を拒んだため、日大が保証金の返還を求めて提訴。東京地裁は17日、区に50億円と遅延損害金の支払いを命じ、訴訟費用も区の負担とした。訴訟費用は約1100万円程度になるとみられ、金額が確定した後、別途支払う。」

（朝日新聞記事 DB『聞蔵ビジュアルII』 <http://database.asahi.com/library2/>）

□【当時：地域メディア】（資料2）

練馬新聞（練馬新聞社）1979年5月13日、第1面

（共生研センター所蔵・練馬母親連絡会資料、ファイル 1653）



■【「私たち」の歴史をふりかえる】（資料3）

「練馬区に公的総合病院をつくる会 年表」『始まりはひとりから 練馬の女性たちの記録 総論編その二-福祉・保健-』（練馬女性史を拓く会、2012年、pp.54-57より）

- 1977年10月 「練馬区基本構想」、高度で専門的機能を持つ総合病院誘致に努めると宣言
- 1980年3月 「ねりまに公的総合病院をつくる準備会」ほか、「住民参加原則、地域医療のセンター的病院、ナーシングホーム併設、用地10000平米、設立資金は市民も負担」を内容とした陳情
- 1981年6月 「区民のための公的機能をもつ総合病院建設のための請願書」提出（9日）  
光が丘地区医療施設構想協議会（会長・倉田正一慶応大学教授）答申（18日）
- 1982年3月 「病院用地を10000平米へ」の請願採択
- 1982年12月 「公的」な病院、高度で専門的機能を持つ総合病院、地域医療の中心的役割、地域の医療に協力、などの内容を盛り込んだ練馬区案、区議会本会議で了承
- 1985年4月 練馬区・区医師会間で「設置運営に関する協定書」調印（公的な目的と機能、高度で専門的な機能、地域医療の中心的機能、地域保健医療活動に協力）
- 1986年11月 医師会立光が丘総合病院開院



□【当時：ミニコミ】(資料6)

練馬母親連絡会『豆ニュース』第39号、1979年11月16日発行、p.3.

(共生研センター所蔵・練馬母親連絡会資料、ファイル1266)

「グラハイに総合病院を作る  
準備会」

11月8日、準備会としては  
二回めの会合をもつた。  
現在練馬区には、総合病院と  
いわれるものは一つもないと  
いうのが現状、しかし今まで  
ほしいという運動がなかつた  
たかというところ、昭和四十七年  
に町会連合会から陳情が出さ  
れていて、そして「採択」さ  
れていてる。  
グラハイの病院予定地は、  
約、虎の内病院の大きさと同  
じバット敷(約200位)のもの  
が建てられる敷地をもつてい  
る。  
区民にとつてより病院とは  
?といわれても、シロウトの  
私たちにサッパリ。とにかく  
で、まず学習をつむ必要があ  
ると、多くの団体へのよびか  
けと、同時に左記のような学  
習を数回行うことにしようし  
て。どうぞみなさん積極的に  
にご協力をねがいします。  
(鈴木喜美子)

「一日講演会」  
練馬にどんな総合病院を  
つくつたらよいか!  
講師 練馬区医務懇談会委員  
□立公衆衛生院行政部長  
橋本正己氏  
日時 12月8日(土) 午後7時半  
場所 母育区民センター(中村橋東)

「東大泉・南大泉地域に  
学童クラブを増設させる  
運動」  
東大泉・南大泉地区は子ども  
の数も多く、大南小は一、三〇〇  
名をこえる児童数で練馬で一番  
のマンモス校、隣接の大泉二小  
もこれに続く大きな学校ですが  
、この地域には学童保育クラブ  
が、東大泉児童館内に一ヶ所し  
かなく、近年幼く母親が増え、  
学童保育への要求が強まる一方

■【「私たち」の歴史をふりかえる】(資料7)

鈴木喜美子「主婦一人から何がうまれたか」

『始まりはひとりから—練馬の女性たちの記録 その一』(練馬女性史を拓く会、2003年、p.52)

「練馬区は、グラントハイツ跡地に5000平方メートルの病院用地を予定し、はじめは、どんな病院でもよい、と考えていたのですが、私たちの運動によって、区民のために練馬にどんな病院が必要かという諮問を専門家(慶応大学倉田教授たちのスタッフ)に依頼し、病院構想をつくりあげました。私たちの要求にそった構想がとうとうできたのです。」



□ 【当時：ミニコミ】（資料8）

『練馬区に公的総合病院をつくる会ニュース』No.2(1982年9月20日)、p.1.

(共生研センター所蔵・練馬母親連絡会資料、ファイル 1653)



■ 【「私たち」の歴史をふりかえる】（資料9）

「練馬区に公的総合病院をつくる会 年表」『始まりはひとりから 練馬の女性たちの記録 総論編その二ー福祉・保健一』（練馬女性史を拓く会、2012年、pp.54-57より）

- ..... 1989年ごろから病院経営悪化
- 1990年4月 病院運営懇談会で、職員大幅整理案提示
- 1991年4月 練馬区、日本大学へ病院運営を委託、日大練馬光が丘病院となる
- 2011年2月 練馬区、日大撤退、あらたな引き受け団体を募集する旨を区報に掲載
- 2011年7月～ 日大医師有志、練馬医師会、市民団体の存続を求める活動
- 2012年4月 社団法人地域医療振興協会練馬光が丘病院へ
- 2012年7月 日大、保証金50億の返還を求めて練馬区提訴

## ■ 【「私たち」の歴史をふりかえる】(資料 10)

堤洋子「練馬に公的総合病院をつくろう！」『始まりはひとりから 練馬の女性たちの記録

総論編その二ー福祉・保険』(練馬女性史を拓く会、2012年、p.53)

「女性たちによる、安心してかかれるよい病院をつくる運動は、区民の要望と希望を結実する形で、練馬区にはじめて公的な光が丘総合病院を誕生させた。しかし、経営主体が医師会から日大へ、さらに地域医療振興会へと移行し、現在は「医療過疎地域」とまで言われ、設立当時の理念からは大きく様変わりしている。医療政策の改定から全国的にも経営が困難になっている病院が多々あるように聞いているが、区は病院を誘致するだけでなく、患者と向き合い「安心してかかれるよい病院」のための支援が義務ではないのか。

病院づくりの運動は、現状を見る限り、どのような意味をもったのだろうか。この運動を過去形にしないためにも、運動のなかから発足した区民による「光が丘総合病院運営協議会」が、区民の意見や要望を受けとめる場として存在する事を切に望む。」

### 練馬母親連絡会の女性たちは

- 記録・発信・討論を通して、同時代の人に経験や知識を開いた = 同時代のアクセス
- アーカイブズを保存・公開する(自分で、あるいは専門機関に託して)ことで、未来の人々に経験や知識を伝えた = 将来のアクセス

## 5. 連絡会のアーカイブズ：これまで行った作業

- 5-1. 搬出元での並び順のまま箱詰めし、そのまま配架
- 5-2. 配架してそのまま利用もさせていたが、一度出すと順番がわからなくなるので、配架順のまま鉛筆で通し番号を記入し、ざっくりとリスト化(書架4本分で10-12日/人くらい) → とりあえず安心して使えるように
- 5-3. 利用者増とニーズの多様化に対応するためリストの改善が必要に
  - 連絡会の皆さんが年表で使っている活動分類
  - 連絡会の活動の根幹が見える基本的な資料の系列(シリーズ)  
...をエクセルのリストに反映
- 5-4. 資料探しのお手伝い：シリーズ、タイトル、年代、固有名などを手がかりに、論理で探す
- 5-5. 利用促進のためのデジタル化：計画としては浮上したが、著作権問題で頓挫  
→アーカイブズ学の基本である「フォンドの尊重」「原秩序保存」\*は幸運にも守れたが、ふりかえればじつに場当たりの…(反省) というわけで

## 6. 「これからやってみよう！」という方へのおすすめ

- A. 「今」の状態を記録しよう
- B. アーカイブズがどんな風に生まれたか調べよう
- C. みんなで全体の方針を立てよう  
→知恵を出し合って、誰にも無理がかからない、長続きする方針を立てる



D. 「何を残すべきか」を判断する基準をつくろう

→100年後「この基準はまちがいだった」と思われるかもしれないが、長い目で見れば

気まぐれな判断が時々正しいよりも、一貫したまちがいのほうがまし

- ▶ 活動を支える重要な記録 (ルール、議事録、会計、人事、契約...)
- ▶ 活動を伝える重要な記録 (機関誌、ウェブサイト、通信文、写真、ビデオ....)

E. どう整理したら使いやすいか、みんなで考えよう

→今のままでも十分使えるなら、そのままがいい

身の丈に合って、誰にでもできて、わかりやすいのがいい

F. みんなで決めたこと、アーカイブズに対して行ったことは全て文書にして、アーカイブズと一緒に残そう

→「なぜこのアーカイブズはこういう残り方をしたのか？」が未来の人にわかるように

G. わからないことは誰かに相談しよう

→ひとりで・自分たちだけで悩まないこと。困ったら NVEC に ☎ ?

H. そして、とにかく、やってみよう！

-----

\*編成・記述(要するに「整理と目録作り」)に関する原則

A. フォンド尊重(の「原則」)principle of respect des fonds (1841～フランス)

- ・異なる組織・個人が作成した文書を混ぜない
- ・フォンドの内部は、主題別分類したりしてもよい

B. 出所原則 principle of provenance

原秩序尊重(の「原則」)principle of respect for original order(1881～プロイセン)

- ・官僚機構が業務遂行と同時に文書を管理する Registratur という仕組みがベース

◎もともときちんとしているならアーカイブズでもそのまま管理しよう！という原則

- ・文書は部局ごとに管理して、他の部局のものと混ぜない(≠フォンド)
- ・部局の Registratur が文書に与えた秩序(original order)を守る

Desjardins, Gustave Adolphe. *Le Service des Archives Départementales*.  
originally published in Paris by E. Bourloton, 1890, Reprints by Kessinger Publishing, 2010, pp.26-30.

Posner, Ernst. Max Lehmann and the Genesis of the Principle of Provenance.  
in: Munden, Ken. (ed.). *Archives and the public interest: selected essays by Ernst Posner*.  
Chicago: The Society of American Archivists. 2006, pp.36-44.

→記録とその作成のコンテキストを確実に結びつけておくために守るべきこと

=====

「やってみる！」…前に読んでみてもいいかもしれない

- アート・プロジェクトのアーカイブズ管理に関するガイドブック  
NPO 法人アート&ソサイエティ研究センター×東京アートポイント計画『アート・アーカイブ  
ガイドブック β版』、2011年。  
[http://www.art-society.com/parchive/new/guidebook\\_beta.html](http://www.art-society.com/parchive/new/guidebook_beta.html) からダウンロード可能
- 朝日崇『実践 アーカイブ・マネジメント 自治体・企業・学園の実務』、出版文化社、2011年。

アーカイブズ全般にご興味を持たれた方は

- アーキビスト・サポート『これを読めばアーカイブズがわかるブックリスト』、2012年。  
<http://www.ne.jp/asahi/archivists/support/booklist2012.pdf> からダウンロード可能